

1 学校教育目標

広い視野をもち、夢を追いかけ、未来にはばたく人間を育成する。

- ・自ら学ぶ人
- ・協力しあう人
- ・健やかな人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ生徒を育む学校 ・豊かな心を育む学校 ・地域が誇れる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって自ら学ぶ生徒 ・規範意識をもって互いに協力しあう生徒 ・健康を意識し、体力向上に努める生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心をもって実践力、指導力を高める教師 ・生徒に寄り添い、情熱をもって職務を遂行する教師 ・生徒、保護者、地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

社会状況が落ち着き、教育活動の制限も緩和される中、生徒たちの笑顔と笑い声があふれる学校が戻ってきた。特に、本校の二大行事である「運動会」と「江北桜祭」においては、生徒アンケートや事後の作文等で表れているように高い達成感を体験する場となった。教員と実行委員が協力し、実行委員会での生徒の取組を最大限に生かして学校が一つとなり、各クラスの団結力を高める活動ができ、生徒の自治の力を育むことができた。また、学校生活では、落ちついた雰囲気の中で教育活動が継続して行われ、生徒たちは笑顔と元気なあいさつをして、授業や学校行事・生徒会活動・部活動等にも意欲的に取り組んでいる。

2 前年度の成果と反省

<成果>

- 令和5年度区調査通過率は令和4年度60.8%から67.8%に+7.8%大きく上回った。
基礎学力の定着に向けた、学習コンテストや家庭学習ノートの点検活動など地道な指導の成果が表れた。
- 生徒会による全学年の交流レクリエーション（生徒会企画）や他学年への応援活動など、生徒の企画・運営による活動により、生徒同士の健全な交流が深まり、学校全体の生徒活動が活性化した。
- 生徒アンケートより「仲間を大切にし、思いやりの気持ちをもって仲間と接している」の問いに対して、肯定的評価が98%あった。仲間同士のトラブルがあってもその都度解決し、良い関係を保とうと努力している様子が見られた。

<課題>

- デイリーノート等の提出はほぼできているが、家庭学習の習慣化についてはまだまだ努力が必要である。生徒が自ら課題を見つけ、学習に取り組む習慣を身につけさせていくことが課題である。
- 電子教科書や大型ビジョンなどの ICT 機器の活用はできているが、タブレット端末を活用した授業には個人差がある。タブレット端末を含め効果的な ICT 機器の活用は今後の課題である。
- 特別支援教室の運営は順調にできているが、通常学級の生徒・保護者および教員も含めて学校全体で特別支援教育の理解促進を深め、組織的に取り組むことが課題である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン（基礎学力の定着）	○	○	○	○	○
2	豊かな心をもつ生徒の育成	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（基礎学力の定着）				
A 今年度の成果目標		達成基準（目標通過率）				
基礎学力の定着と自ら学習に取り組む生徒の育成		年度末到達度確認テスト 正答率 60% 令和6年度区調査 通過率 61%				
B 目標実現に向けた取組み						
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)
1 継続	授業改善と ICT を活用した授業推進	全教科	年2回	足立スタンダードに即した授業改善と効果的な ICT 機器を活用した授業の実践。	年2回の授業観察時に実施の確認	全ての教員の実施を確認し、効果的な授業方法の工夫を検討する。
2 継続	学習コンテスト (漢字・計算・スペリング)	3教科	年3回	3教科の基礎的内容の定着を図る。 ・漢字7月 ・スペリング11月 ・計算1月	プレテスト 本テストの実施	平均合格率80%を目指し、達成感と自己肯定感を高める。

3 継続	読書指導と学力補充	3教科	年間	朝のベーシックタイムと放課後の学力補充における読書指導および基礎反復学習	進行管理（計画と実施）	計画の90%以上の実施
4 継続	区学力調査の検証テストの実施	3教科	9月	区学力調査の検証テストを実施し、基礎学力の向上を図る。	区学力調査の検証テストの実施	3教科の通過率、正答率の5%の上昇
5 継続	家庭学習の習慣化	全学年 全教科	通年	家庭学習を習慣化させるためにデイリーノート、家庭学習ノートを活用し、自学自習の習慣化を図る。	デイリーノート、家庭学習ノートの確認、生徒アンケートの実施	毎日の家庭学習の習慣化、生徒アンケート率80%以上。家庭学習の定着を目指す。
6 新規	学校図書館を活用した自学自習の推進	全学年 全教科	定期テスト1週間前	放課後の学校図書館を活用した自学自習を推進する。（随時放課後も拡大していく）	定期テスト1週間前	放課後の学校図書館利用率90%以上

重点的な取組事項－2		豊かな心をもつ生徒の育成
A 今年度の成果目標	達成基準	
豊かな人間性と社会性をもち充実した学校生活を送る生徒の高い割合	「学習や生活に関する調査」で該当項目の肯定的評価を以下の規準で判断 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
充実した道徳教育	道徳授業の時間 A=35 回以上 B=30～34 回 C=30 回未満 調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員のローテーションによる道徳授業の実践 ・いじめ撲滅週間の実施 ・人権学習週間の実施
意欲的な学習活動	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のやる気を引き出す足立スタンダードに基づく授業 ・学習課題の適切な管理 ・毎日の家庭学習ノートの確認
思いやりの心をもった生徒の育成	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への自主的な参加促進 ・生徒の自主性を生かした生徒会活動（委員会、部活動、交流活動等）
読書活動の推進	学校図書館の利用者数（月平均） A=400 人以上 B=300 人～399 人 C=300 人未満	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の励行 ・図書委員会の活動活性化 ・学習活動での学校図書館の利用促進 ・放課後の自習での活用
体験・交流活動および継続的なキャリア教育	ボランティア生徒数 A=100 名以上 B=80～100 名 C=79 名以下	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等での異年齢交流ボランティア活動 ・体験活動の実施 ・職場体験及び上級学校訪問 等